

令和5年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立 古市 小学校

令和5年3月7日

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

令和 3 年度「運営に関する計画」における最終評価から、本校の現状と課題は以下のとおりである。

全教職員が平素より子どもに寄り添い、保護者との連携を丁寧に行っている。「いじめアンケート」を毎月行い、子どもの実態把握に努めてきた結果、学校が楽しいと感じており、いじめや不登校は少なく安心・安全な教育活動に取り組むことができている。一方で、自尊感情の向上は十分とは言えず、コロナ禍ではあるが、本校の長年の課題となっている。

学力・体力面においては、小学校経年調査の結果分析から思考・判断・表現の項目では大阪市平均を大きく上回っており、社会科を中心にした授業改善の取り組みの成果が表れている。また、投能力向上に向けた取り組みを授業に組み込むなどの工夫を重ねており、子どもたちが好んで運動に取り組むことができている。しかし、基礎学力の定着に課題がある子どもも多く、学年間の系統を意識した基礎学力向上の取り組みは重要である。

学習者用端末の活用に関しては、全学級で取り組んでいるが、取り組みの頻度は学級間・学年間でばらつきがみられる。

**中期目標****【安心・安全な教育の推進】**

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。(1)
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。(1)
- 令和 7 年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。(2)

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50%以上にする。(4)
- 令和 7 年度小学校学力経年調査の平均正答率 7割以下の児童を、いずれの学年も令和 3 年度より 2 ポイント減少させる。(4)
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強が好きですか。」「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に答える児童の割合を 50%以上にする。(4)
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 70%以上にする。(5)

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 令和 7 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 90%以上にする。(6)
- 1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 45 時間を超えず、及び、1 年間の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 360 時間を超えないようにする割合を 70%以上にする。(7)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安心・安全な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を90%以上にする。（1）
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（1）
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。（2）

#### 学校園の年度目標

- 令和5年度の小学校学力経年調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を80%以上にする。（1）
- 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。（1）
- 令和5年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。（2）

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を55%以上にする。（4）
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。（4）
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。（4）
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する割合を75%以上にする。（5）

#### 学校園の年度目標

- 令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を1ポイント増加させる。（4）
- 令和5年度小学校学力経年調査の平均正答率 7割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント減少させる。（4）
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。（4）
- 令和5年度の校内調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。（5）

## 【学びを支える教育環境の充実】

### 全市共通目標（小・中学校）

- デジタル教材を活用した朝学習を週 1 回実施する。（6）
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1（基準 2）を満たす教員の割合を 80%以上にする。（7）

### 学校園の年度目標

- 令和 5 年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で毎日、学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 40%以上にする。（6）
- 1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 45 時間を超えない割合を各月 80%以上、1 年間の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 360 時間を超えないようにする割合を 70%以上にする。（7）

## 3 本年度の自己評価結果の総括

|      |                      |                         |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した       | B: 目標どおりに達成した           |
|      | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況     |
|---|----------|
| <p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を <u>90%以上</u>にする。(1)</li> <li>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(1)</li> <li>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(2)</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和5年度の小学校学力経年調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を <u>80%以上</u>にする。(1)</li> <li>○ 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。(1)</li> <li>○ 令和5年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、<u>80%以上</u>にする。(2)</li> </ul> | <b>B</b> |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況     |
|---|----------|
| <p><b>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内調査や児童の観察等によって、いじめが認知された場合、学年・管理職・いじめ対策委員会との情報共有を行い、指導の方針や進め方等を確認し、迅速に対応する。</li> <li>・ 指導の経過を記録に残し、解消されたと判断されるまで指導を続ける。</li> <li>・ また、いじめにつながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」などの取り組みを行う。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペア学年会やスクリーニング会議を毎月行い、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報を共有し、未然防止・早期対応を徹底する。</li> <li>・ 「いじめアンケート」を毎月実施し、いじめの解消率を90%にする。</li> <li>・ 校内調査における「いじめはいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する割合を90%以上にする。</li> </ul> | <b>B</b> |
| <p><b>取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな不登校児童の割合を減らすため、「スクリーニングシート」を活用する。複数の視点で支援を必要とする児童を早期に把握し、適切な支援を行う。</li> <li>・ 欠席状況や児童の観察等から不登校傾向が認められた場合には、スクリーニング</li> </ul>  |          |

|  |   |
|--|---|
| <p>会議で取り上げ、さらにスクリーニング会議で報告することで、学校全体で情報を共有し、指導の方針や進め方等を確認して早期対応に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原因の特定・解消を進める中で保護者との連携を図りつつ、保護者への指導が必要な場合は管理職・教職員・関係機関とも連携を図る。また、不登校につながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」や聞き取り等、事象に応じた的確な取り組みを行う。</li> <li>学校に来にくい児童の居場所を確保し、安心して学校生活を送れる手立てや働きかけを計画的、継続的に行う。</li> </ul>  | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員がスクリーニングシートを活用する。</li> <li>スクリーニング会議を毎月行い、不登校傾向が認められた児童は、学校全体で情報を共有し、全教職員が連携して問題の未然防止・早期発見を徹底する。</li> </ul>   |   |
| <p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の自尊感情・他尊感情を高めるための手立てとして、自然体験学習や社会体験学習、たてわり班活動、異学年交流や地域との交流を計画し実践する。</li> <li>「他者への奉仕（ボランティア活動）」「助け合い・学び合い」「いいところ見つけ」などの活動を各学年で取り組むとともに、芸術鑑賞会や、委員会活動で花を育てることを通して、豊かな心の育成を図る。</li> <li>「命を大切にする」「いじめをゆるさない」という強い心を育てるため、学年内で課題を明確にし、人権教育の学習を充実させる。道徳科を研究教科とし、研究授業や道徳の研修を計画・実施するとともに、学年内で教材検討や授業交流等を行うなどして、道徳教育の指導方法の充実を図り、豊かな心の育成に取り組む。</li> </ul>  | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、<u>80%以上</u>にする。</li> <li>隔年で芸術鑑賞と音楽鑑賞を学校行事として設定し、情操教育を行う。</li> <li>年12回の道徳科の研究授業を行い、保護者への理解・啓発を図るために学校だよりやホームページ等で情報発信を行う。</li> </ul>   |   |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>   |   |
| <p>【年度目標】について<br/>(年度目標の達成状況を数値などにより具体的に記述する。)</p> <p><b>全市共通目標 (小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を <u>90%以上</u>にする。(1)<br/> <b>経年調査</b><br/> 3年＝94.7%<br/> 4年＝90.8%<br/> 5年＝82.9%<br/> 6年＝81.3%<br/> 合計＝87.4%</li> <li>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(1)<br/> <b>不登校児童の在籍比率</b><br/> 令和4年度1.5%→令和5年度1.3%</li> <li>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(2)<br/> <b>改善割合</b></li> </ul> |   |

令和4年度 0%→令和5年度 25%

### 学校園の年度目標

- 令和5年度の小学校学力経年調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を80%以上にする。(1)

#### 経年調査

3年=94.7%

4年=90.8%

5年=82.9%

6年=81.3%

合計87.4%

- 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、前年度より増加させる。(1)

#### 改善割合

令和4年度 0%→令和5年度 25%

- 令和5年度末の校内調査の「友達一人一人の違いを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。

⇒低学年 93.6%、高学年 96.1%で目標達成

### 【取組の進捗状況】について

(取組の進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などについて記述する。)

#### 取り組み内容①

・いじめにつながる子供同士の関係や事象を把握するために毎月「いじめアンケート」を行った。毎月「いじめアンケート」を行うことでいじめの早期発見に努めた。また、情報を教員全体で共有し、学校全体で当該児童を見守るよう努めた。

#### 取り組み内容②

・「スクリーニングシート」を活用し、複数の視点で児童の実態を捉え、支援の必要な児童を早期に把握できるように努めた。また、欠席状況から不登校傾向が認められた場合には、ペア学年会で取り上げ、さらにスクリーニング会議で報告し、学校全体で情報を共有した。  
・学校に行きにくい児童には教室ではなく、登校しやすい場所を確保し安心して学校生活を送れるように支援した。また、学級の友達とつながれる機会もつくるよう努めた。

#### 取り組み内容③

・研究教科を道徳科として豊かな心の育成を図った。また、昨年度よりたて割り班活動や異学年交流が活発に行われるようになり、自尊感情や他尊感情を高める機会が多かったことが、目標達成につながったのではないかと考える。

### 次年度への改善点

#### 【目標設定】について

(まず、年度目標のうち、未達成のものについて次年度はどのように取り組むのか記述する。次に、課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述する。)

全市共通目標である『小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を90%以上にする。(1)』の目標が全体で87%と90%に届かなかった。3年生、4年生は90%を達成できたが、5年生、6年生は90%を達成できなかった。高学年になればなるほど「どんな理由があっても」の言葉の部分に今までの自分の経験から、きっぱりと「絶対にダメ

だ。」と言いきれぬように感じるのではないかと考える。去年度も同じような傾向が見られたので、今年度は毎月「いじめ・命について考える日」を設定し、いじめは絶対にいけないことだと伝え続けた。各学級でも折に触れて同じメッセージを伝えた。これらの取り組みにより去年度の76.7%だった数値が今年度87.4%と10.7ポイント増加したのだと考える。来年度も引き続き取り組んでいきたい。

#### 取り組み内容①

- ・おおむね目標通り取り組むことができた。

#### 取り組み内容②

・おおむね目標通り取り組むことができたが、年度目標の達成に向けた取組内容の文言を来年度修正する必要がある。修正箇所＝保護者への指導→保護者への支援や働きかけ

#### 取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】

・原因の特定・解消を進める中で保護者との連携を図りつつ、『保護者への指導』→『保護者への支援や働きかけ』が必要な場合は管理職・教職員・関係機関とも連携を図る。また、不登校につながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」や聞き取り等、事象に応じた的確な取り組みを行う。

#### 取り組み内容③

・「他者への奉仕（ボランティア活動）」については、今年度取り組んだ内容を各学年から集約して、来年度に向けて検討を行う。

・道徳科が研究教科の内容の項目については、来年度研究教科が体育科になるので、内容を来年度検討しなければならない。

|      |                      |                         |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した       | B: 目標どおりに達成した           |
|      | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況     |
|---|----------|
| <p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標 (小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>50%以上</u>にする。(4)</li> <li>○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より <u>1ポイント</u>向上させる。(4)</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>50%以上</u>にする。(4)</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する割合を <u>70%以上</u>にする。(5)</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を <u>1ポイント</u>増加させる。(4)</li> <li>○ 令和5年度の小学校経年調査の平均正答率7割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より <u>0.3ポイント</u>減少させる。(4)</li> <li>○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を <u>70%以上</u>にする。(4)</li> <li>○ 令和5年度の校内調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を <u>60%以上</u>にする。(5)</li> </ul> | <b>B</b> |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況     |
|---|----------|
| <p><b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いの深まりを感じさせるために、各学年や学級で教科を決めて振り返りを行い、又、それに対する評価方法を工夫することで子どもが「わかる」「できる」を実感できるようにする。</li> <li>・ 対話による学びを深めるために、ペアやグループ、一人一台端末を活用した学習の機会を設ける。また、そのための研修、学年内での情報共有など行う。</li> <li>・ デジタルドリル、単元末テストなどを子どもの実態に合わせて組み合わせて使用する。</li> </ul> | <b>B</b> |

|  |          |
|--|----------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>誰一人取り残さない学力の向上を達成するために、個人懇談などの短縮授業時を利用して担外などが中心となり、学習の取りこぼしをなくし、学力の向上をはかる。</li> <li>経年テストを分析し、7割以下の児童を分析・把握し、それらを基にした習熟度学習に一年間継続して取り組む。</li> <li>教員自身も楽しんで授業できるように、英語のゲームなどの実技研修を行う。</li> <li>モジュールを活用し、継続的に英語に触れさせる機会をもたせる。</li> </ul>   |          |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」の項目を55%に向上させる。</li> <li>令和5年度の小学校経年調査における正答率が市の平均の7割に満たない児童を学校全体の5%未満にする。</li> <li>英語の実技研修を年1回以上行う。</li> <li>校内調査「理科の勉強が好き」「外国語（英語）の勉強が好き」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>小学校経年調査</b></p>  |          |
| <p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の実技研修を行ったり、運動カードを活用したりして体育の授業を実施し、運動が苦手な児童にも運動が好きになる授業づくりに努める。</li> <li>週1回以上の外遊び(みんな遊び)を行い楽しみながら運動ができるようにする。</li> <li>スポーツテストの記録を児童に渡すことで、運動に対する意識を高められるようにする。</li> <li>保健指導や栄養指導により基本的な生活習慣を身に着け児童の健康の保持増進を図る。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>全国体力・運動能力、運動習慣調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の実技研修を年に1回以上行う。</li> <li>年2回以上の食育指導を行う。</li> <li>学期に1回健康週間を行う。</li> </ul> | <b>B</b> |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>   |          |
| <p>【年度目標】について</p> <p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を<u>1ポイント</u>増加させる。(4)</p> <p>【取り組み】</p> <p>毎時間の最後や各単元の終わりにふりかえりの時間を確保したり、ふりかえりの話型を全クラスに掲示したりして、児童の考えを深めたり広めたりする活動を定期的に行った。教職員では、ふりかえり用のワークシートの例を提示したり、上記テーマにおいて指導教諭を招聘し研修を行ったりした。</p> <p>【結果】(同一母集団での比較)</p>   |          |

|          |      |      |      |      |
|----------|------|------|------|------|
| 学年       | 3    | 4    | 5    | 6    |
| R4年度 (%) | 未受験  | 54.4 | 52.4 | 44.1 |
| R5年度 (%) | 45.3 | 40.0 | 39.5 | 37.5 |

【分析】

前年度の同一母集団での比較によると4～6年生において前年度より低下している。取り組み内容がふりかえり活動を中心としており、児童は調査における「話し合う活動」という言葉が取り組み内容と一致せず、話し合い活動の充実を実感できなかったのではないかと考える。

- 令和5年度の小学校経年調査の平均正答率7割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント減少させる。(4)

【取り組み】

対象児童の把握と共有を行い、1年間継続して支援を行った。算数科においては年間を通して習熟度別学習に取り組み、対象児童への支援を行った。懇談期間中の放課後学習では、対象児童を中心に声をかけて参加を促し、取り組む課題もより学習内容が定着する内容へと抜本的に入れ替えた。デジタルドリルの研修会を実施し、デジタルドリルで児童のつまづきを教職員が把握し、基礎・基本定着を図れるようにした。

【結果】平均正答率7割以下の児童の割合

|          |      |      |      |      |      |      |
|----------|------|------|------|------|------|------|
|          | 4年国語 | 4年算数 | 5年国語 | 5年算数 | 6年国語 | 6年算数 |
| R4年度 (%) | 40   | 28   | 21   | 39   | 32   | 51   |
| R5年度 (%) | 54   | 41   | 33   | 53   | 54   | 38   |

平均点の推移

|          |      |      |      |      |      |      |
|----------|------|------|------|------|------|------|
|          | 4年国語 | 4年算数 | 5年国語 | 5年算数 | 6年国語 | 6年算数 |
| R4年度全市平均 | 69.2 | 72.0 | 72.4 | 60.3 | 69.5 | 70.6 |
| R4年度校内平均 | 79.2 | 65.3 | 75.6 | 62.4 | 71   | 77.3 |
| R5年度全市平均 | 63.7 | 65.0 | 69.7 | 60.3 | 63.4 | 71.4 |
| R5年度校内平均 | 66.2 | 67.5 | 76.2 | 62.5 | 66.0 | 72.7 |

【分析】

経年テストの平均点は年度ごとに推移しており、特に今年度は前年度に比べて全教科において平均点の低下がみられた。難易度は年度ごとに異なるため、経年調査の正答率だけで比較するには難がある。

- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。(4)

【取り組み】

理科では、理科専科教員による専門的で本格的な授業を年間を通して行う。外国語では、毎週1回朝の学習でのモジュール学習、週2回の給食時間に外国語の音楽をかけ流すことで外国語の定着を図った。また、教職員では指導教諭を招聘して研修を実施した。

【結果】

理科

|              |      |      |      |      |
|--------------|------|------|------|------|
| 学年           | 3    | 4    | 5    | 6    |
| 最も肯定的な回答 (%) | 49.3 | 75.4 | 67.1 | 56.3 |
| 肯定的な回答 (%)   | 78.6 | 92.3 | 92.1 | 78.2 |

外国語(英語)

|              |      |      |      |      |
|--------------|------|------|------|------|
| 学年           | 3    | 4    | 5    | 6    |
| 最も肯定的な回答 (%) | 70.7 | 47.7 | 44.7 | 42.2 |
| 肯定的な回答 (%)   | 85.4 | 75.4 | 75   | 65.6 |

【分析】

大阪市の中期目標では、小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 50%以上にする。とあるが、それを大きく上回る学校園の目標設定に対して3. 4. 5年生で目標を達成できている。理科においては、全学年において肯定的な回答が目標設定を大きく上回っている。理科専科による専門的で児童の興味関心を惹きつける授業が継続的に行われたためだと考える。

指標

- 校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」の項目を55%に向上させる。

|              |       |       |      |
|--------------|-------|-------|------|
| 学年           | 1～3年生 | 4～6年生 | 教職員  |
| 最も肯定的な回答 (%) | 51.2  | 36.4  | 31.8 |

- 令和5年度の小学校経年調査における正答率が市の平均の7割に満たない児童を学校全体の5%未満にする。

|                       |      |      |      |      |
|-----------------------|------|------|------|------|
| 学年                    | 3    | 4    | 5    | 6    |
| 市の平均点                 | 63.6 | 64.4 | 63.8 | 68.5 |
| 市の平均の7割の点             | 44.5 | 45   | 44.7 | 48   |
| 市の平均の7割に満たない児童の割合 (%) | 19   | 13   | 3    | 13   |

- 英語の実技研修を年1回以上行う。行った。
- 校内調査「理科の勉強が好き」「外国語（英語）の勉強が好き」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。  
理科 87% (3年生から6年生) 外国語 81% (1年生から6年生)

取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】

○令和5年度の校内調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を60%以上にするでは、63.8%と目標は達成できた。しかし低学年70.2%高学年57.4%と高学年は低い数値になっている。

- 教員の実技研修では、すぐに体育の授業に生かせる内容で、教員の指導力向上につながった。
- 運動カードの活用やみんな遊びを全学年行ったが、アンケート結果から「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好き」には直結しているとは考えにくい。
- 保健指導や栄養指導により基本的な生活習慣を身に着け意識的に実践しようとする姿がたくさん見られた。
- 指標はすべて指標通り行うことができた。

次年度への改善点

**【目標設定】**について

(まず、年度目標のうち、未達成のものについて次年度はどのように取り組むのか記述する。次に、課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述する。)

**取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

- ・コロナ禍で制限された話し合い活動が今年度本格的にそれ以前の形に戻ったが、特に経験の浅い教員には話し合い活動の具体的な姿がイメージできていなかったのではないかと考える。今年度実施した研修会に加え、「話し合いとは何か。」「話し合い活動を通して児童にどのような力を付けたいのか。」「考えが広がる、深まるとはどのような状態を指すか。」等、教員の意識調査を含めた研修会を実施し、教科学習に留まらず全ての学校生活において話し合いを指導に積極的に取り入れようとする教職員の意識付けを行う必要がある。また、全教職員は年度内に1回以上公開授業を実施しているため、その授業をできるだけたくさんの教員が参観したり、積極的に他校の研究授業等も参観したりすることで、授業力の向上を目指すことが求められる。さらに、教員間で気軽に指導法について情報共有していくことができる風土づくりが必要である。
- ・児童にとって「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の内容が実感できない実態があった。校内調査では、本内容に即して「学習の終わりに、できるようになったこと、知ったこと、もっと考えたいことなどの内容を中心にふりかえり活動ができていますか。」など具体的な質問で調査をしていくことも考えられる。
- ・理科や外国語では、目標を達成できたものの、教科の楽しさを味わうことのできる指導内容を工夫していく必要がある。

**取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】**

- 休み時間、自ら遊びたい、体を動かしたい、体を動かすことが気持ちが良いと思えるように「遊び場」「道具の整備」「遊び方」の工夫が必要でと考える。
- ・休み時間身体を動かして遊べる場所をマップにする。
- ・縄跳び大会やドッチボール大会、たこあげ大会（縦割り班やペア学年）などのスポーツイベントを行い、スポーツを楽しめるようにする。

|      |                      |                         |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した       | B: 目標どおりに達成した           |
|      | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況 |
|---|------|
| <p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタル教材を活用した朝学習を週 1 回実施する。(6)</li> <li>○ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (基準 2) を満たす教員の割合を 80% 以上にする。(7)</li> </ul> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和 5 年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で毎日、学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 40% 以上にする。(6)</li> <li>○ 1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 45 時間を超えない割合を各月 80% 以上、1 年間の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 360 時間を超えないようにする割合を 70% 以上にする。(7)</li> </ul> | B    |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週一回の朝学習はデジタルドリルを活用する。また、3～6 年生は、計算ドリルに代わってデジタルドリルを活用した課題学習、家庭学習を実施する。</li> <li>・ 生活科、社会科等の調べ学習を行う際は、インターネットを活用したデジタルコンテンツ等を積極的に利用し、学習者用端末を活用する機会を増やす。</li> <li>・ 教員が、学習者用端末の活用機会を増やしていくため、それぞれの教員の情報を共有したり、校内にて情報モラルに関する研修を行ったりすることで、教員の ICT 活用場面の多様化を図る。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学級や授業にて、デジタルドリルを活用した朝学習などを月に 4 回以上行う。</li> <li>・ 情報モラルに関する教員研修を年に 1 回行う。</li> </ul> | B    |
| <p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勤務情報システムの「時間外勤務実績」を毎月の職員会議でチェックし、時間外勤務に関しての意識を改善していく。</li> <li>・ 会議を短くするために、伝達事項・連絡は PC 上で読み、質問や意見がある場合、担当者に伝え、全体で共有するようにする。そのために、全員が SKIP 掲示板や outlook、ミマモルメを毎日開いて確認するように徹底する。</li> <li>・ 全体の仕事量減のため、学期毎に行事の精選アンケートを行う。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 30 時間を超えない割合を各月 70% 以上にする。</li> <li>・ ゆとりの日を毎月 1 回以上設定する。</li> </ul>                   | B    |

- ・ 会議や研修などのない日を年間 35 日以上設定する。

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

#### 【年度目標】

○校内調査の「日々の学校活動の中で毎日、学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、肯定的に答える児童の割合は低学年で 72%、高学年で 55%で、達成した。朝学など様々な場面で学習者用端末を活用してきた成果だと考える。

○1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 45 時間を超えない割合は各月平均 95.2%、1 年間の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 360 時間を超えないようにする割合は 72%で、達成した。

毎月の会議前に勤務時間を確認したり、資料を事前に配付したりしたことで時間について意識できた成果だと考える。

ただし、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 に関してはまだ 80%以上には達していない。

#### 【取り組み内容①】

○毎週水曜日の朝学習の時間を全学年「デジタルドリル」にて実施することを定めたことで、月 4 回以上行うことができ、デジタルドリルの活用率は上昇している。朝学習にてデジタルドリルを活用していく上で、有効的な学習コンテンツにしていくために、実施方法の検討と、実施回数の見直しを行う必要がある。

○教員向け情報モラル研修は、校内にてオンデマンド形式にて実施することができた。

#### 【取り組み内容②】

○1 か月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が 30 時間を超えない割合を各月 72%で、達成した。（上記のように）会議の資料を事前に配付したり、連絡で SKIP 掲示板を活用したりしたことで効率化できている。

○ゆとりの日は毎月 1 回以上設定できた。また、PTA や地域の会議の日などが 17 時以降にある日を「残れる日」とし、その前日を「ぷちゆとり」として退勤時間を意識し、メリハリをつけて勤務できるようにした。

○会議や研究などのない日（NKD）は年間で 32 日とることができた。会議や研究を予定していなかった日に、急に予定が入ることもあったので、次年度は「会議や研究を入れない日」として明記していく。

### 次年度への改善点

（課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述する。）

#### 【取り組み内容①】

○デジタルドリルを家庭学習でも活用していくのであれば、校内調査の「日々の授業の中で」という文言は合わないので、「毎日、学習者用端末を活用して学習している」に変更する必要があるのではないかと。

#### 【取り組み内容②】

○成績入力期間にはなるべく会議や研修を入れず、ゆとりをもってミスなく入力できるように、会議や研修を計画的に組んでいくようにする。

○時間外勤務時間は減っているが、依然として持ち帰り仕事は多い。次年度、授業時数を減らし、研修ウィークなどを設定することで、今年度よりも時間に余裕は出るはずで、その中で、少しずつでも行事や業務の精選を進めて、ゆとりをもって勤務できるようにして

いく必要がある。